



相手の主張に正しくツッコミを入れる方法



中小企業診断士
米倉 博彦

オフィスで、家庭で、店舗で・・・今日も今日とて、不毛な議論が繰り返されている。日本の学校教育では正しい議論の仕方を教えていないように思うので、仕方がないことなのかもしれない。今回は、相手の主張に正しく「ツッコミ」を入れる方法について書く。

1) 相手の言いたいことを分解する

まずは、相手の主張を「前提」「主張」「根拠」に分解する。たとえば、下記の発言を3つに分解してみる。

「人間の運命は生まれた瞬間の星座の位置で決まる。なので、私が使う占星術は人の運命を言い当てることのできるのだ。実際に、友人のAさん、同僚のBさん、いきつけの店のマスターCさん皆が、よく当たっていると教えてくれた」

さて、この発言を分解するとどうなるだろうか？

前提：人間の運命は生まれた瞬間の星座の位置で決まる。

主張：私が使う占星術は人の運命を言い当てることのできる。

根拠：友人のAさん、同僚のBさん、いきつけの店のマスターCさん皆が、よく当たっていると教えてくれた。

この人が主張したいのは、自分の占い（占星術）はよく当たる、ということだ。その前提として人間の運命と星座のつながりを、根拠として実際に占いが当たった例を挙げている。

この発言では①前提②主張③根拠の順番に並んでいたが、①主張②根拠③前提や①根拠②主張③前提など、順番に関してはいろいろなパターンがありえる。

「前提」は特に注意したい。なぜなら、前提を話さない人が多いからだ。会社の同僚同士の会話など、参加者全員が「前提」を共有できているのであれば問題にはならない。しかし、たとえば同じ会社の社員3名プラス他社の人間1名で飲み会に行ったときはどうだろう。3名が会社の上司の悪口を言ったところで、前提を共有できていない他社の人間には何が何だかわからない。

なかには、あえて前提を話さず、相手が誤解することを狙っている悪質な人もいる、こちらも要注意だ。

2) 主張そのものにツッコミを入れる

それでは実際に上記の主張にツッコミを入れていこう。まずは主張からだ。

主張に対してツッコミを入れることは、あまりお勧めはしない。なぜなら主張にツッコミをいれると感情論や主観論に陥りがちだからだ。

たとえば「占星術は人の運命をよく当てる」という主張に対して、「おれは当たるとは思わない」「占星術よりもタロットカードの方が当たる」などと言ってみても、反論になっていない。

「当社は新事業に進出すべきだ」という主張に対して「新事業に進出すべきとは思わない」とか「他にもやるべきことがあるはずだ」とか言っても、その主張の根拠を説明しなければ議論はまったく深まらないのだ。



主張に対する議論をしていると、結局は「ケースバイケースだね」とか「価値観の問題だよ」という当たり障りのない結論にたどり着いてしまう。まあ、よくあることだが……。

3) 前提にツッコミを入れる

「占星術が人の運命をよく当てる(主張)」は、前提である、「人間の運命は生まれた瞬間の星座の位置で決まる」が正しくなければそもそも成り立たない。そこでこの前提にもものを入れることは有効だ。たとえば下記のようなツッコミが考えられる。

「星座の位置は刻一刻と変わっているが、何分までのズレを許容するのか、5秒ずれたら運命も変わるのか」

「星座の位置は2千年前と現在では微妙に違っているが、その差はどう考えればいいのか」

主張の前提を抑えることは健全な議論を進める上でとても大事だ。

私はよく「**とおっしゃいますが、その言葉の定義は何ですか？(横文字なら)日本語で言い換えてみると？」などと、相手が辟易するほどしつこく確認する。前提が共有されずに議論が進み、実行段階で意見がずれていることに気づき、修正ができなくなるという不幸なケースを未然に防ぐためだ。

一見主張が対立しているように見えて、実は前提の共有ができていないだけだったということもある。広告宣伝費を積極的に使おう！という社員と、コスト削減をしなければならない！と主張する社員は、対立しているように見える。だが、実は「利益を出したい」という前提を共有できていないだけかもしれない。

前述のように、「前提」は隠れていることも多い。誰かが何かを主張しているときは、その主張の前提はなんだろうと、必ず考えるくせをつけよう。

4) 根拠にツッコミを入れる

最後は「根拠」だ。例ではAさん、Bさん、Cさんの話をして、占星術が当たることの根拠だとしている。根拠へのツッコミのパターンは以下の通りだ。

- ・データは充分か？「Dさんは当たらなかったと言っていた」
- ・データが偏ってないか？「A、B、Cさん全員が占い師の知り合いであった」
- ・データの理解が歪んでいないか？「A、B、Cさんそれぞれで当たっている内容と深さに違いがある、Aさんは彼氏が居ることを当てられただけ、Bさんは今の悩みまでピタリと当てられた。それらを同列に扱うのはおかしい」

などなど。他にも、データが古くて現状に即していない、外国の例のいいところだけをつまみ食いしている(例：北欧では……)などのツッコミどころがある。

5) 議論と人格をきちんと分ける

議論をする上で一番大事なことで、かつ難しいのは、議論と人格をきちんとわけることだ。「あいつのことはどうもいけ好かないが、あいつの言っている事は正しい」と言える人が、本当に議論のできる人である。

感情的になることを否定はしない。情熱を持って取り組みれば良い成果に繋がることも多い。

ただ、自分が感情的になっていることは理解しておこう。ある程度頭の良い人は、本当は感情的になっているのに、後から理屈をくっつけてさも論理的であるように発言をすることができる。結果、自分で自分を騙し、間違った判断を下しているのにそれに気付かない。

自分の主張に固執せず、よりよい意見を聞いたら発言者が誰かに関係なく「なるほど、そう言われてみれば、確かにそうだね」と自分の主張をあっさりと捨てる、そんなさわやかな議論ができる人間になりたいものだ。